

## 敦煌壁画の保護に関する共同研究(セ04-06-1/5)

### 目 的

本研究は、東京文化財研究所と敦煌研究院が行ってきた4期にわたる敦煌壁画の保存に関する共同研究を継承し、新たに第5期として推進するものである。その内容は、以下の通りである。

- (1) 壁画制作技法・制作材料に関する光学的方法及び分析的方法を用いた総合研究
- (2) 放射性炭素年代測定法による主要窟の年代同定に関する研究
- (3) 日中の若手研究者育成
- (4) 第4期において修復作業を完了した研究対象窟第53窟についての継続的経過観察

これは、近年のシルクロード各地における各国・各研究機関の専門家による壁画を中心とした文化財研究の進展を念頭に置きつつ、壁画の制作材料と技法を古代のシルクロードを通じた文化交流、技法・材料の移動という観点から研究し、敦煌壁画を総合的に理解しようとするものである。

### 成 果

(1) 合意書の調印：第5期日中共同研究を開始するにあたって中国国家文物局が定める規則に従い、共同研究に関する合意文書への調印と交換を行った。まず4月下旬に敦煌研究院で一度調印を行ったが、その後、第4期までの総括を行った後に第5期を許可する、という国家文物局の指導を受けたので、10月に評価委員会を開催し、3月中旬の日付をもって再度調印交換を行った。共同研究の期間は2006年4月からの5年間となっている。

(2) 第1次合同調査：7月30日から9月16日の日程で、調査チームを現地に派遣し、敦煌研究院のメンバーと共同で、第285窟壁画の写真撮影・顕微鏡観察・分光反射率測定、第53窟の環境調査、放射性炭素年代測定に供する試料の採取、鉛同位対比分析に供する顔料試料の選定を行った。8月28日には、名古屋大学年代測定総合研究センターの中村俊夫教授による放射性炭素年代測定の原理と応用についての講演会を実施した。

(3) 評価委員会の開催：10月18日に、敦煌研究院において第4期までの日中共同研究に関する中国側専門家による評価委員会を開催した。評価委員から、15年に及ぶ共同研究の成果が高く評価されるとともに、第5期共同研究に対する期待が寄せられた。

(4) 敦煌派遣研修：日本から東京芸術大学大学院生3名を敦煌に派遣し、研修を実施した(139頁を参照)。

(5) 敦煌研究員の来日研修：1月11日から3月9日の日程で敦煌研究院保護研究所研究員2名を招聘し、研修を行った。郭青林研究員は、名古屋大学年代測定総合研究センターで2006年8月に莫高窟第285窟で採取した試料の放射性炭素年代測定実施に必要な作業を通しての研修を受けた。趙林毅研究員は、国立歴史民俗博物館において、莫高窟で採取した鉛系顔料の化学分析及び鉛同位対比分析の実習を行った。2007(平成19)年3月9日には、本研修の成果をまとめて報告会を行った。

(6) 王旭東副院長以下の来日：第5期を開始するにあたり、3月12日から21日の日程で、王旭東敦煌研究院副院長(保護研究所長)以下4名を招聘し、交流を図るとともに、国内の関係研究機関と文化遺産保護現場の視察を行った。

(7) 報告書の作成：平成18年度の成果をまとめ、東京文化財研究所と敦煌研究院両者共同の成果報告書を編集し、発行した。

### 研究組織

岡田健、青木繁夫、山内和也、朽津信明、谷口陽子、宇野朋子(以上、文化遺産国際協力センター)、高林弘実、大竹秀実(以上、客員研究員)、石崎武志(保存科学部)、中野照男(美術部)、中村俊夫(名古屋大学)、齊藤努(国立歴史民俗博物館)